

夏休みの推せん図書(5・6年)

令和元年7月 杉教研学校図書館部

夏休みの楽しい計画にわくわくしているあなた、時には面白い本や考える本を読んで、ちがう世界をのぞいてみませんか。

「旅からわかる江戸時代1

参勤交代で大移動！武士の旅」

深光 富士男 河出書房新社

電車も飛行機もない江戸時代。地方の藩から江戸へ向かう大名たちの参勤交代は、ひたすら歩いていく旅。その距離なんと1日40km！「武士の旅」以外にも「庶民の旅」「船と物の旅」の3冊シリーズ。昔の人は、どんな旅をしていたのかな。思いをはせて、「江戸の旅」を楽しんでみてはいかがでしょうか。

「ゆかいな床井くん」

戸森 しるこ 講談社

六年生の四月から卒業までの一年間の物語です。それぞれが、悩みつまづきながらも、その子のよいところに気が付いて、お互いに成長していくお話。語り手である暦の視点や床井くんのさりげないやさしさが心に残る作品です。

「ぼく、アーサー」

井上 こみち アリス館

みなさんは、盲導犬候補の子犬は、まず「パイプウォーカー」の家庭で約10か月を過ごすことを知っていますか。1ページ読み進めるうちに、盲導犬アーサーに「ありがとう」と言いたくなる一冊です。この本には視覚障がい者が「緊張しないでくらししていける世の中になってほしい」というメッセージも込められています。

「クジラのおなかからプラスチック」

保坂 直紀 旬報社

タイの海岸に打ち上げられたクジラ。そのお腹から出てきたのは、約8kgものプラスチックの袋でした。このまま何も対策をしなければ、地球はプラスチックごみだらけになってしまうかも・・・！身近な「プラスチック」から地球の環境を考えていく本です。

「オポッサムはなくてません」

フランク・タシュリン 大日本図書

この森でいつもにこにこ笑っている、一番ごきげんで、一番幸せな動物、それが「オポッサム」。しかし、ある日、四人の人間がやってきて、オポッサムが悲しそうに見えたため、町へ連れて行ってしまいました。さてさて、オポッサムは町へ出て幸せになれたのでしょうか。本当の幸せとは一体どんなものなのでしょうか。

「おくのほそ道」

(すらすら読める日本の古典 原文付き)
松尾芭蕉作 長尾 剛文 汐文社

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。」これは初めの部分です。松尾芭蕉の書いた「おくのほそ道」を読みやすい現代語で作品をわかりやすく説明し、巻末に原文も入っています。芭蕉がどんなことを考え、有名な俳句を作っていたのかを知ることができます。あなたも東北を歩いてみたくなるかもしれません。

その他のおすすめの本

本の名前	著者名	出版社
ある晴れた夏の朝	小手鞠 るい	偕成社
君だけのシネマ	高田 由紀子	PHP研究所
さよ 十二歳の刺客	森川 成美	くもん出版
野生のロボット	ピーター・ブラウン	福音館書店
がんばれ給食委員長	中松 まるは	あかね書房
ねん菌	川上 新一監修	農文協
Q部あるいはCUBEの始動	ささき かつお	PHP研究所
ライチョウを絶滅から救え	国松 俊英	小峰書店
プログラミングでなにができる？	杉浦 学監修	誠文堂新光社
シリーズ戦争 語りつごう沖縄5 沖縄戦を忘れない	安斎 育郎	新日本出版社